

JAPAN TODAY

2019年 MONTHLY 5,6,7月号

ジャパン・ツディ編集部 村井実・編集長 ☎160-0004 東京都新宿区四谷4の6の1 四谷サンハイツ1205号
ジャパン・ツディは朝日、毎日、読売、産経、東京、日経、NHKにない独自の視点で解説。

日本政治は東京の山手循環線

その心は同じ円を回って進歩なし

サークル

直近の国会をみると、麻生財務相兼金融相に対する不信任決議案と内閣不信任案が衆参院で自民、公明、維新などの反対多数で否決(6・21)された。

野党が麻生財務相を吊しあげたのは、老後の生活費が2千万円不足とした金融庁の審議会報告書の受け取りを拒否したからだ。目前に参院選が迫っており、国民がいちばん高い生活費・年金をつけれ

たから、安倍政権に不利に働くという点で同報告書をなかつたことになった。この瞬間、衆参同時選挙は消えた。

そのあと、同24日には首相問責決議案、25日には内閣不信任案が国会に提出されるのだが、今の自公の圧倒的多数の国会の議席の前では野党は風前の灯で「否決」される。それよりも野党は問責決議案、不信任案を出して衆院解散でもされたらどうしよう—とあわてふためいていた景色は笑っちゃう。「家政婦は見えていなかった」かもしれ

ないが、有権者は見ていた。間もなくやってくる7月参院選の前で、野党は自民党に対して「かく戦った」という国民有権者向けの実績作りを見せたい茶番劇。国民はこの水田町芝居にあきまきしている。

私の主張のような野党批判をするマスコミは少ないかもしれないが、橋下徹・元大阪市長は彼の著書「政権奪取論」(朝日新書、

890円)の中で、私と同じような意見を述べている。野党の弱さが日本政治の劣化を招く

野党の弱さが日本政治の劣化を招く

野党の弱さが日本政治の劣化を招く

野党の弱さが日本政治の劣化を招く

野党の弱さが日本政治の劣化を招く

野党の弱さが日本政治の劣化を招く

野党の弱さが日本政治の劣化を招く

野党の弱さが日本政治の劣化を招く

る。しよせん野党の政策に、それほど違いはないのだが...

厳しい世界情勢の中、日本風船は吹く飛んでいく

日本国内では重箱の隅をつついたような森友加計、厚生省の不正統計など、チマチマした票政レベルの政局に明け暮れた安倍政治。肝心の国債(1000兆円)や年金のような大問題を飛ばして、何が国政なのか。

国外ではトランプ、プーチン、習近平、金正恩...そしてイラン対米国戦の予兆。北朝鮮と米国の行方。ここでは日本外交はさっぱり見えてこない。

昭和40年代・同50年代は自社時代で社会党が大あはれして国会論戦は外交が華だった。そうした国会の活気ある原風景を取材してきた私としては、日本がこれほどきつい世界情勢にさらされている中、日本という風船はどこへ飛んでいくのか。与野党とも、その羅針盤となる政治家がいらない。討論もない。

今風の政治家はカネと利権を追って自分だけ生き残ればよい、という議員が多すぎる。

この原稿の終わるころになって、横浜から中年男性の声が入った。「今の日本は享楽ばかりに走り、爺さん婆さんたちはゴルフにカラオケばかり。それも老後のひとつの楽しみだが、老人は人生経験も豊富だ。今の若者が夢を持たせるような話や教育を与えてほしい。老人の知恵も必要な時代なのです」。


令和元年(2019)6月24日 村井実

黒川泰子


銀座シグナスマンズリーライブ

日時 2019年8月23日(金)
9月20日(金)
10月25日(金)

開場 19:00
開演 19:30 ~ 21:00 (入替なし)
ミュージックチャージ ¥5,000+チャーム代
中央区銀座カレラ式番館ビル B2F
TEL: 03-3289-0986



LIVE SPOT
CYGNUS



黒川泰子

国立音楽大学声楽科卒業 日仏文化交流功労賞(エディット・ピアフ賞)受賞。サッチャー元英国首相歓迎レセプションにソロ出演。フランス、アメリカ、カナダ、中国等海外公演多数。六本木、赤坂、銀座シグナス、マキシム等マンズリーライブ開催。京王プラザホテル15年連続クリスマスディナーショー開催。'12年「CDショップ大賞」ももいろクローバーZ、サカナクション等と共に全14作品にノミネートされる。bayFM、ラジオ日本番組パーソナリティを務める。

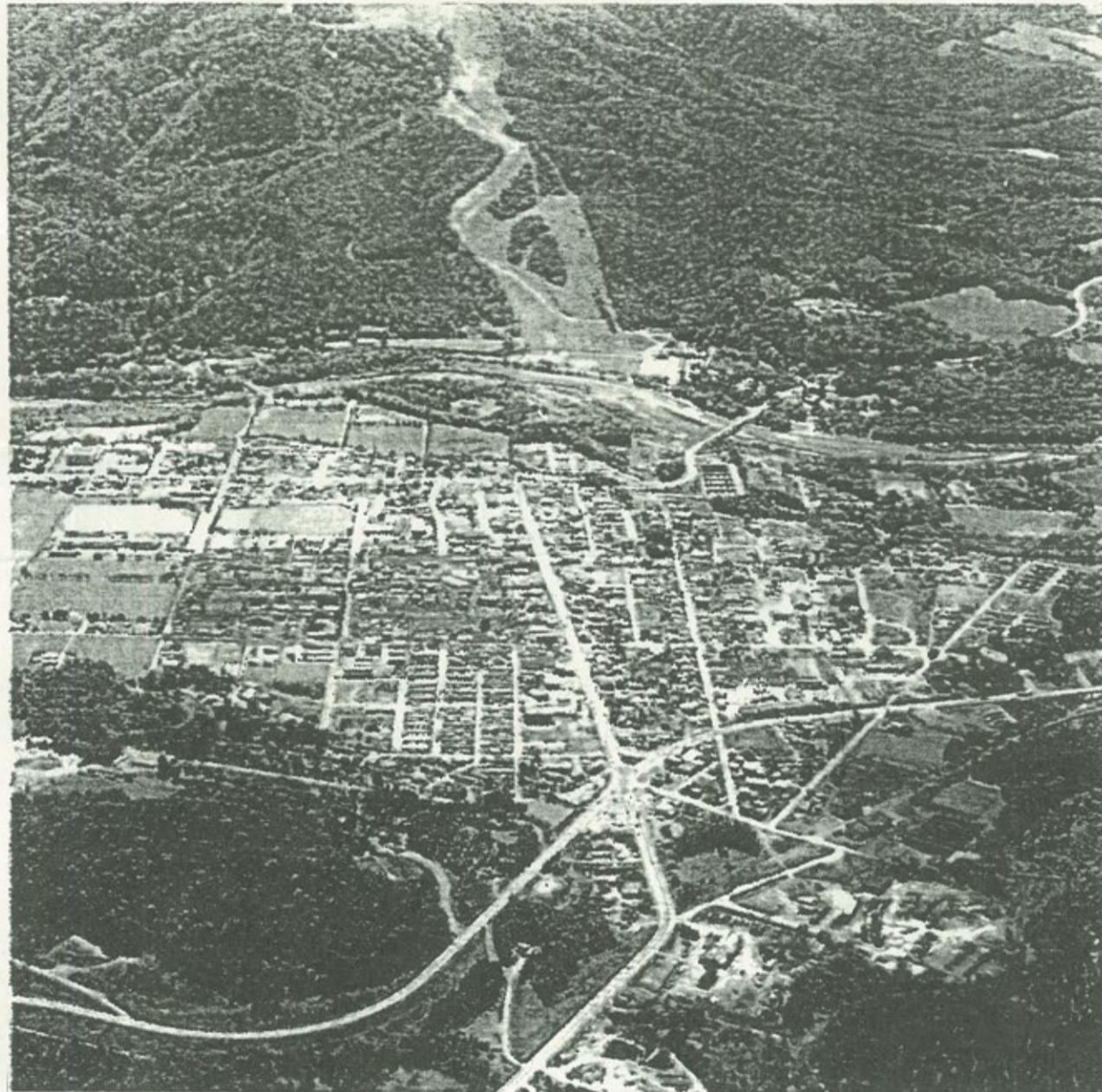
JAPAN TODAY

2019年 MONTHLY 5,6,7月号

新聞は時代を映す鏡である！(ジャパン・ツディは全国47都道府県庁、地方自治体に配布しています)
過去の歴史を学ばない者は、再び未来の歴史を誤るということを日本国民は知らなければならない

ふもと 日高山脈の麓に土地2万5000坪

「コンドミニウム・ホテル」 や「セカンドハウス」に



写真説明 上部3分の1、山部分は日高国際スキー場(頂上までの山部分はカットされているが全長3・8KM)。スキー場の下は沙流川が左右に横断。中央に縦に走る太い道は国道237号。国道中央から左側、村井家の所有地。

北海道の日高山脈に近い日高町(沙流郡日高町字日高)が私、村井(当新聞編集長)の生まれ故郷。町の中心街に村井家は約2万5000坪の土地を所有。個人住宅地として42軒を借地に。また3000坪を空地で遊ばせている。

私の幼少時代は、村井家の西隣に広瀬一族と今井一族が広大な土地を所有していた。これが日高町での御3家だった。

しかし、今井一族の土地は昭和30年代に消え、広瀬一族の土地は昭和40年代から50年代にかけて消えていった。

残った我、村井家の土地は農場だったが、時代と共に昭和40年代から田畑が住宅地に変身。そこはやがて自然に街の中心地となった。

その昔、明治時代に祖父母が富山県から北海道開拓を目指して、船で小樽に上陸。そこから更に山奥へと入り、日高山脈の麓(ふもと)にたどり着き、アイヌ人の多い今の日高町(のちの日高町)で農場を開いた。

今から10年前に隣の平取町(ひらとりちょう)を越えて、太平洋岸の日高町別町(人口、1万人)と飛び石合併したが、町名は従来通りの日高町(現在人口は日高町別町と合わせて1万2000人)。

当時、町には高校がなかった。私は中3から小樽の親戚に下宿して4年間、小樽生活。

高卒後、小樽から東京へ出て「東京出稼ぎ」。農場を継がそうとした親父から猛烈に進学を反対されて、やむなく東京に裸一貫で脱走！下町で新聞少年のスタート。

日本はやがて経済成長期に入り、日高町にも高度経済の波が押し寄せ、「日高国際スキー場」が完成。夜間スキーOKなので、周辺はじめ多方面から観光客が集まった。

日高山脈は世界一高いエベレスト山と同様、海がせり上がって誕生した山脈。近年の気象は、日本列島が亜熱帯列島に変化し、夏の本州は猛暑すぎて、日常は不快すぎる。

これを受けて快適な生活を送られると、地元民は自慢する。「北海道の日高は6月の梅雨(しゆ)なくて、8、9、10月(例年10月20ごろ初雪)までは気象に暮らせる」と。

日高町は海拔が78メートルの台地。この快適な生活を保障する我が故郷・日高は、「定住」でも「期間限定定住」でも「コンドミニウム方式の低額の一軒間との共同会員」でも可。ぜひ、この北海道日高町の大自然を利用して下さい。

村井家から1000メートル近くに日高国際スキー場があり、スキー場の下には日高山脈源流から沙流川(さりゅうがわ)の清流が流れる。沙流川は住民が住む台地から50メートル低く、雨の洪水はない。

私たちが小さい頃から遊んできた母なる沙流川は、人生をいやしくれまじした。日高山脈から流れてくる石は「青色」で名が知られ、沙流川石は「産石」としても有名。

日高町で生活(セカンドハウス)を送りたい方は

JAPAN TODAY <代表・主筆 村井 実からのメッセージ>
国民の知る権利は民主主義の原則。

政治は生活そのもの。上流を見ず下流を見て歩け。▼日本の政治ジャーナリズムは権力に迎合した付度記者が多すぎることにレッドカード！▼権力には右でも左でも迎合せず、建て前を排した本音の論陣を張れ！▼「国防」と「財政」は車の両輪で国家の基本。島国の日本は国防論議に関心が薄く、一方で国民が稼いだ税金のムダ遣いに無頓着すぎる。▼ジャーナリズムとは飼いらされた犬はダメ。番犬でなければならぬ！▼記者業とは死ぬまで時代を追いかける「触覚」の勝負！

村井(K・D=07001
6640120334=東京
在住)まで御連絡下さい。
相談に応じます。

交通は数年前に千歳空港
↓帯広↓釧路ルートの高速度
道路が完成したため、車では
千歳(占冠)しむかっぶ
まで1時間半。占冠から日
高町まで30分。
列車は千歳空港↓南千歳
駅(乗り換え)↓占冠駅下
車まで1時間半。さらにパ
スで日高町まで30分。